

5 児童生徒による授業評価

児童生徒とともに授業をつくり上げるために

(1) 児童生徒による授業評価の意義

「分かる授業」、「楽しい授業」を実現するためには、日々の授業改善が必要です。

その際、教員が自ら授業を振り返るだけでなく、児童生徒が授業をどうとらえているかを知り、それを授業改善に役立てることが大切です。

また、授業は教員と児童生徒が共同してつくるものであるという意識を児童生徒の中にはぐくむためにも、授業への取組や学習活動について、児童生徒自身が自己評価を行うことは重要な意味をもっています。

(2) 授業評価の分析と活用方法

評価結果は、それぞれの授業を担当する教員が指導に役立てることはもちろんですが、教科会や学年会・職員会などで分析結果を共有し、教員全員で授業改善に取り組むことが大切です。

また、児童生徒の自己評価の結果からは、児童生徒一人一人の学習意欲やクラス全体の学習状況などを把握することができるので、日々の指導に生かすこともできます。

さらに、年度末には、このような児童生徒による評価も踏まえた上で、次年度の授業計画の改善を行います。

年間授業計画作成で
共通理解に立った
評価を

各教科等の目標、学習内容、授業進度、学習方法、評価規準、評価方法等を書いた「年間授業計画」(シラバス)をあらかじめ児童生徒や保護者に配布し、説明することにより、児童生徒や保護者の理解を得た上で、授業や評価を行うことが大切です。

授業評価の流れ

年間授業計画の作成

年間授業計画の配布・説明

授業評価 (中間評価を含む)

評価分析・授業改善

成果と課題の公表

MEMO

児童生徒による授業評価を実施する際の留意点

○児童生徒による授業評価は、年度末だけでなく、たとえば学期末などに実施することにより、年度途中でも授業評価を授業改善に生かすことができます。

○児童生徒にアンケートを行う際には、「教員とともに授業をつくるという観点に立って記入する」など、授業評価の趣旨を児童生徒に十分に説明した上で実施します。

○児童生徒による評価は、授業評価だけでなく、たとえば、選択教科(科目)の内容に関するものや学校生活に関するものなども考えられます。

授業評価票の具体例（〇〇中学校）

教員が授業を改善していくための項目

授業アンケート

選択肢の数を奇数にすると真ん中が多くなる傾向があります。偶数にすることで、傾向がより明確になります。

1 授業内容は
 ①理解しやすい ②比較的理解しやすい ③やや理解しにくい ④理解しにくい

2 板書は
 ①見やすい ②比較的に見やすい ③やや見にくい ④見にくい

3 話し方は
 ①はっきりしていて聞き取りやすい ②比較的聞き取りやすい ③やや聞き取りにくい ④聞き取りにくい

.....

6 授業に対する要望・感想などがありましたら、自由に書いてください。

生徒自身が授業に臨む姿勢を改善していくための項目

◎ 自らの学習活動を振り返って

1 家庭学習は
 ①しっかりできた ②ほぼできた ③あまりできなかった ④できなかった

2 持ち物の用意は
 ①しっかりできた ②ほぼできた ③あまりできなかった ④できなかった

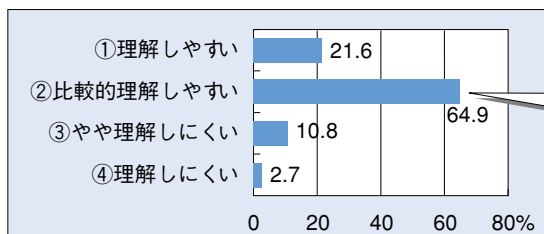
3 わからないことは、先生へ積極的に質問などして解決に努めることが
 ①しっかりできた ②ほぼできた ③あまりできなかった ④できなかった

4 授業中は
 ①集中できた ②ほぼ集中できた ③やや集中力に欠けた ④集中できなかった

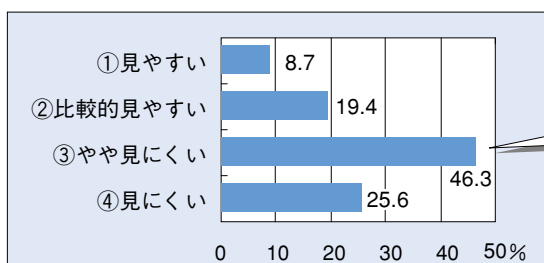
.....

評価結果とその活用

総合的に考察して、成果と課題を明らかにします。その際、結果の集計をグラフにするなど、分かりやすく表示することも有効です。



優れている項目については、その要因を明らかにし、教員の共有化を図ります。



不満が多い項目については、その原因を明らかにし、改善につなげます。